様式４

令和５年度第６回
富士見市社会教育委員会議
議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="6">令和５年１１月２２日（水）　開会　午後７時００分
閉会　午後８時４５分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="6">富士見市立中央図書館　２階　視聴覚ホール</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席 者</td><td rowspan="4">委　　員</td><td>本田議長</td><td>渡邉副議長</td><td>蘇武委員</td><td>内海委員</td><td>秋元委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>小栗委員</td><td>関野委員</td><td>戸田委員</td><td>八木橋委員</td><td>深瀬委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="5">生涯学習課　主査、主任</td></tr>
<tr><td>公 開 ・
非 公 開</td><td colspan="6">公開（傍聴者０人）</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="6">１　あいさつ
２　協議事項
・第３４期のテーマ決定に向けて
３　その他
・各会議への参加報告</td></tr>
</table>

議　事　内　容
１　あいさつ ２　協議事項 ・第３４期のテーマ決定に向けて 【副議長】　議長が遅れているので、到着するまで代わりに進行する。今日は各委員に事前にご提出いただいた宿題について共有しながら、今後に向けて進めていく。事務局より、配布資料の説明を。 【事務局】　次第とレジュメ、また事前に配布しているが、前回の会議で意見を出していただいた「理想の姿」をまとめた資料。それから「富士見市の社会教育現状把握シート」と書いてある、みなさんからご提出いただいた宿題をまとめた資料もお配りしている。Ａ３のものは各委員の意見をすべて１つのファイルにまとめたもので、Ａ４のものは各委員からご提出いただいたものをそのまま印刷したもの。見やすい方をご利用いただければ。また２名の委員より追加資料をいただいた。それもＡ４の資料の方にまとめてある。 【副議長】　前回の会議で「理想の姿」を付箋に書き出してもらった。事務局より事前に配布があったと思うが、まとめ方にご意見があれば伺いたい。 【委　員】　まとめるのは大変だったと思う。まとめていただき議長と副議長には感謝申し上げたい。 【副議長】　レジュメにあるように、今後理想と現状のギャップを確認していく上で、何を理想としていたか随時立ち返りながら進めていければと思う。また議論を進めていく中で改めて気が付くこともあると思う。この「理想の姿」のまとめは、その都度更新していければと考えている。では、特に異論はないようなので一旦このまとめを元に進めていきたい。議長が到着されたので、進行を議長にお願いする。 【議　長】　レジュメに今後の流れが載っている。「理想の姿」の確認が終わった。次は「④現状の確認」になる。宿題として各委員よりご提出いただいたかと思うが、それぞれご発表いただき、意見を交換できればと思う。 【委　員】　委員より追加でご提出いただいた資料の中に、「理想の姿」をテキストマイニングにより分析した結果の資料がある。現状の確認に入る前にご説明いただいた方がよいかと思う。 【委　員】　みなさんに付箋で書き出してもらったものをＯＣＲで読み込みテキスト化し、それをテキストマイニングにより分析した。「２０２３／１０／０５ホワイトボードのテキストマイニング」とある資料。残りの２枚は事務局から共有のあったアクションプランシートの担当課評価コメントと事業目標をそれぞれ分析したもの。担当課評価コメントについては、現状の課題が読み取れるのでは、と考えて分析

した。事業目標については、富士見市の社会教育全体でなにを目標にしているか現れるのではないかと考えて分析した。前回の会議で委員より「テキストマイニングを使ってまとめるとよいのでは」という意見があったので、実際にやってみた。この結果の見方を説明する。単語が丸で囲われて、線でつながれている。丸の大きさが、出現頻度を表している。関連する単語が線でつながれている。例えば「地域」という単語について、比較的大きな丸で囲われているが、これはつまり多く現れた単語だということ。また「人」「世代」「学ぶ」「問題」といった単語が線でつながれているが、関連する言葉として同時に現れていたということ。また線の太さが関連の強さを表している。

【委　員】　分析いただいて、キーメッセージはなにかあるか。読み取った結果をお教えいただきたい。

【委　員】　驚くような結果はなかった。テキストマイニングとはそもそも大量のデータを分析するのに有効な手法であり、今回はデータが少なかったのかと思う。みなさんの考えていることが図として視覚的にまとまったと思う。

【議　長】　では、宿題の共有をしていきたい。アクションプランシートを各自読み込んでいただいたと思うが、現状をどのように読み取ったか、共有し意識を合わせていく時間とする。私は、全体的に、立体的にどのような取り組みが行われているのか、見ることができたのではないかと思っている。色々な取り組みを行っていて、項目としてはそれなりに整っているな、という印象を持った。インフラ・基盤として防災、防犯に係るものがあるし、地域活性化としての諸々の取り組みもある。学習という部分では一般向けの講座が色々ある。子育て支援としては、親子に向けたサポート的なものから息抜き的なものまで、こちらも色々な取り組みがあると感じた。子ども・親子向けというカテゴリーや、保護者・親向け、高齢者向けなど対象が色々と設定されているということも確認した。また地域資源を活用するという活動も地域ごとに見られた。公民館活動も充実していると感じた。最後の方に挙げている項目が私の意見のまとめ的なものになる。連携がされている部分、多面的に一体化している活動、組み合わせができている活動があるということ。また市民参加型の運営がなされている部分があること。参加者だった人が後に指導者になるという人材の循環ができている部分があること。デジタルによる情報発信をしていること。全般にわたって、という訳ではないが、部分的にはできていると評価した。課題はインフラ・基盤の部分や、担い手不足、参加者の減少や周知・告知不足などが挙げられるかと思った。

【委　員】　感覚的な話にはなるが、強みとして、満足感や距離感については、富士見市は良いものを持っているのではないかと思う。活動に関係されている方々で、参加して良かったと感じている方が多いように感じた。またいい距離感で活動に関与できているのではないかと感

じた。一方で弱みとして、一つ目、計画や活動実績に対する評価の踏み込みが足りておらず、評価として甘いのではないかという点。色々な事情があるのだろうとは推察するが、活動の見直しを行うことや改善を促していくことを考えると、評価については辛辣気味でもいいのではないかと感じている。また二つ目、計画遂行の推進力が欠けているのではないかという点。アクションプランシートを見るに、後付けで取りまとめられたもののように感じる。市として計画を遂行していけるのか、やや疑問に感じている。市としてリーダーシップを発揮していただいてもいいのではないか。三つ目、市民に対する発信力。「そんな活動があるなんて知らなかった」という方が多いように感じている。色々な媒体で発信してほしいという思いはあるが、一方で市のリソースは限られているので、あれもこれも、という訳にはいかない。どこかに焦点を当てて広報活動をしていく必要があると思う。しかし、ではどこに焦点を当てるか、ということは、この社会教育委員会議の中で議論していってもいいのではないかと思う。最後に、デジタル技術の活用。取り入れた活動が出てきてはいるが、現状行われている社会教育・生涯学習の活動は対面形式のものが多く、参加するにあたっては日時や場所といった制約を受ける。デジタルをうまく活用できれば、そういった物理的な制約を取り払い、より多くの参加を促せるのではないかと考えている。

【議　長】　委員のご指摘のとおり、アクションプランシートにおける評価がはっきりしないので、強みとして捉えて良いのか、弱みと捉えるべきなのか、判断がつかない。「こういう取り組みをしているんだな」ということは分かっても、それがいいことなのか、悪いことなのか分からないというのは、私も感じた。

【委　員】　強みとしては、富士見市は各地に公民館があり、サークル活動や地域の行事をきめ細やかに支援してくれており、とても活動しやすいという点。また色々な組織があり、町会も複数あるので、誰かを取り残すことなく、色々な人とつながることができるような組織がある点。その中で自分たちの町会を意識したり、自分たちの街をよくしていこうと意識したり、組織があるおかげでそういった気持ちを持つことができているのではないかと考えている。また色々な所で子どもたちを見守ろうとする大人がたくさんいる印象がある。弱みとしては、公民館という社会教育施設のない地域もあるという点。公民館同士は公民館運営審議会などもあり、交流してお互いにどのようなことをしているのか確認し合っているが、その場に交流センターやコミュニティセンターは入っていないのではないか。また富士見市は昔から数世代にわたって住み続けている人が多い地域や、新しく住み始めた人が多い地域など、地域性がかなりある。昔から住んでいればお互いの顔も分かっているかもしれないが、色々な所から人が集まっているような地域だと、近所の人の顔が分からなかったり、「寝に帰るだけ」という意識が強いと地域愛は持っていなかったりする。地域によって、地域を思う気持ちが違ってくると思っ

ている。また子どもを見守る大人は多くいるが、大人は意外と子どもと会う機会がない。大人に対して子どもと会う機会を作らないと、子どもの顔が見られないという人が多いのではないか。

【議　長】　強みと弱みで軸を同じところに置いている。できているところは強みでも、全域にわたっていないというところは弱みとなる。同じ軸で強みと弱みを捉えるというのは共感する。

【委　員】　「分野」の捉え方が分からなかったので、自分なりに書かせていただいた。危機管理課の防災対策事業の中で、防災リーダー養成講座や防災ガイドブックの製作等、市民の防災意識の向上のための啓発活動は有効であると考えた。公民館・各交流センターだよりについては、地域のあらゆる情報が提示される工夫があり、とても努力が伺えると感じた。各講座も集いの場として定着し、仲間づくり、情報交換の場として有効活用されている。子ども未来応援センターの子育てに関する講座については、親と子、親と親などのスキンシップの場、情報共有の場として有効に機能していると感じた。健康増進センターの市民健康増進事業については、様々な講座が開設され、住民一人ひとりが健康について理解し維持していくために有効に機能している。水子貝塚資料館については、国の史跡に指定されている水子貝塚に隣接された資料館として、地域の歴史や文化を学ぶための講座の開設により、子ども連れに考古学等を学ぶ機会を与えている。難波田城資料館については、富士見市の歴史を知るための常設展示は有効である。季節にあわせた行事等もよい。図書館については、各事業を通して、図書館や本に触れあう機会がありよい。弱みについては、危機管理課に関しては、避難所としての横のつながりが不十分である。避難所を中心とした防災訓練が年に１回は必要ではないかと考える。シティプロモーション課に関しては、サイクリング道路のコスモス街道について、維持管理している会員の高齢化に伴った対策が不可欠。またサイクリング道路沿いにトイレがないことには対応が必要。環境を意識し、自然に親しめる大型公園も不足している。公民館、各交流センターについては、高齢者サロンをはじめ、主催者も参加者も高齢化し継続的に運営していくのが難しい状況。また講座の内容によって関心が得られず参加者の減少が見られる。健康増進センターの市民健康増進事業については、市民全員が誰でもできる体操の普及が不可欠である。水子貝塚資料館については、水子貝塚をもっとアピールするための工夫が必要。さらに縄文時代に触れた行事の開催、祭りの開催などが必要ではないか。難波田城資料館については、富士見市ならではの特別展示の工夫が必要。図書館については、施設内で子どもや幼児が遊び、ゆったりくつろげる場の工夫があるとよい。交流センターについては、もう一か所あると市民が集いやすいのではないか。集会所では狭すぎることがある。

【議　長】　同じような軸で強みと弱みを出していただいた。良いところも多くあるが、もう少しこうすればもっとよくなる、という部分がありそ

うだ、という話だった。

【委　員】　強みについて、全体的に富士見市は社会教育が強いと感じた。取り組みの数や、組織的な取り組みも行われている。また公募制度が比較的多い。例えば社会教育委員は公募していない自治体もある。お手本となるような団体も多いと感じている。とはいえ、市民公募もいわゆる充て職をもう少し減らして、より市民公募が活性化するような取り組みができないか、とは思っている。弱みについて、ここに挙げたのは、富士見市特有のものではなく、行政全体にいえる弱みだと思っている。委員も仰っていたが、計画が見えないというのはとても感じている。一つひとつの組織がなにかをやっているのは分かるが、全体としてどういう方向に持っていきたいのか、そういったメッセージは感じられないと思った。また「世代の偏り」という分野を挙げたが、高齢者や子どもを対象とした事業が多い。事業目標のテキストマイニングの結果からも分かる。どういう事業をやりたいのか、ということが表れていると思うが、「介護」「予防」「健康」といった単語が現れている。また「子育て」「親」といった単語、「児童」「育成」といった単語がある。例えばクラフトビアフェスタのような、働く世代を対象とした事業をもう少しやってもいいのではないか。また、やはり組織で縦割りになっており、そこに横ぐしを通すのは誰がやるのか。私は、それは行政がやるというよりも市民がやらなければいけないのではと考えている。市民公募の話にも関わってくるが、市民が力を発揮する時代なのだということを、もっとメッセージとして打ち込んでいくような、全体的な計画があった方がいいのではないかと思った。

【議　長】　テキストマイニングによる分析もしていただいた。

【委　員】　テキストマイニングについては、「こんな感じなんだな」と振り返って見ていただけるといいのでは。担当課評価コメントの分析について、担当の職員の方が事業を振り返って評価したのだと思うが、やはりコロナ関連の単語が多く、対応が大変だったことがよく分かる。「参加」という単語もあるが、「少ない」という単語と線でつながっている。やはり参加者が少ないという課題があったのだと思う。事業目標の分析については先程申し上げた通り。繰り返しになるが、分析結果をみると働く世代への対応が課題なのではないかと感じる。この単語を囲む丸の大きさは出現頻度が表れているが、小さな丸が多く現れており、良いバランスなのではないかと思った。丸の位置はあまり関係ないが、どの単語と単語がつながっているか、に注目して見ると面白い。この分析はアクションプランシートから言葉を抽出して分析したもの。事業目標と担当課評価コメントをそれぞれ分析している。

【議　長】　事業目標はつまり、どんなことを目指しているのかが現れている部分かと思う。

【委　員】　ご指摘の通り。足りない部分が見えてくるのではないか。

【議　長】　担当課評価コメントを見て思ったのは、コロナの話が多く評価のし

ようがないということ。コロナ禍の中でも工夫したということは分かったが、どう評価するかは判断しかねた。

【委　員】　私は、作業すればするほどよく分からなくなってしまった。そもそもこのアクションプランの内容で良いのか疑問に思った。横ぐしが通っていないというのもまさにそうだし、どういう方向に行きたいのかが、分からなかった。また担当課があまりに偏っているのではないかと感じた。追加資料として行政組織図を提出した。アクションプランがこんなにたくさんあるのに、担当課は一部の課に偏っている。また生涯学習課と文化・スポーツ振興課の２課が担当となっている事業が１つあるのみで、他はすべて単独の課で担当している。それでいいのか疑問に思った。担当課と、関連している計画を抜き出したらなにか分かるかと思い、資料としてまとめて提出した。強みは全体で庁内の担当部署が多岐に渡っていること。いろいろな所で、色々な課が頑張ってくれている。一方で、課同士で手がつながれていない。弱みとして、単一の担当課で完結しており縦割りであるというところは感じている。また公民館と交流センターについて、先程委員からお話があったが、確かに公民館は公民館だけで公民館運営審議会があり、交流センターやコミュニティセンターとはつながっていないのかなと思った。しかし、公民館運営審議会の活動は横並びで、拠点となっている各公民館がつなげてくださっていることがわかり、これは強みではないかと思った。提出した資料の各公民館の取り組みを見ると、どこの館も同じレベルで事業を展開していると思った。弱みとしては、啓発事業でもある防災について、コロナ化で実施できなかった、中止したとあったが、残念に思った。コロナ禍でも災害はあるし、コロナ禍だからこそできる対応や啓発活動があったのではないか。また気になったことが２点ある。都市計画マスタープランでは７つに地域が分けられているが、学びの部分で地域格差が生じていないか。また第２次教育振興基本計画と関連する事業があまりにも多いが、他に関連する計画が少ない。せっかくの計画なのにもったいないと感じた。もっと色々な事業を展開してほしいと思った。

【議　長】　今の話は、委員から提出いただいた資料の中で、「事業に関連ある他計画」の部分についてか。

【委　員】　ご指摘の通り。

【委　員】　計画に基づいて事業を展開するのだから、そういうものではないか。

【委　員】　なので、アクションプランがこれでいいのか、という疑問がある。教育振興基本計画だけではなく、もっと他の計画との関連があってもいいのではないか。

【委　員】　生涯学習課と文化・スポーツ振興課だけ２課で１つの事業をしているというのはどの事業のことか。

【委　員】　資料の中で通し番号１９をつけた「国際交流フォーラム」。縦割りではなく、横の連携を持ってほしいと思う。

【委　員】　確かに横の連携については感じた。ただ行政としては仕方のないこ

となのだと思う。誰が横ぐしを通すか考えると、それは市民なのだと最近気付いた。そういう観点で見ることのできる市民がどれほど増えていくか、ということがキーポイントになるのではないかと思う。しかし昨年度実施されたクラフトビアフェスタは色々な課が関わっていたように思う。

【委　員】　私も実行委員として携わった。クラフトビアフェスタは、行政の方が飲めない方も楽しめるものにしたいと仰っており、なるほどと思った。親子で、家族で楽しめるイベントにした。お酒を飲める人だけでなく、淑徳大学の学生のみなさんにパネルシアターをやってもらうなど、家族で楽しめるようにした。穏やかな時間が流れており、子どもたちも楽しかったと思う。その時はシティプロモーション課や産業経済課、農業振興課や商工会など、横の連携をしっかり取っていた。

【議　長】　市制施行５０周年を締めくくる、大きなイベントだったと認識している。毎回は難しいのかとも思う。しかし理想の形であると言えるのかもしれない。

【委　員】　私も以前行政職に就いていたことがあるので分かるが、横の連携は予算の執行が大きな障壁になるのではないかと思う。担当課の方々に予算を上げてほしいと言っても、簡単な話ではない。前年度に大きな成果を上げているか、もしくは市民からのとても強い要望があるか、どちらかでないと予算の確保は難しいのではないかと思う。私たち市民が関わっている場で、こういうことをしたい、新しいことに取り組みたい、という話を挙げて、まず予算を確保するということが大事なのではないかと思う。弱みに挙げたが、いずれ起こる施設の老朽化や、ＩＣＴ関連の話など、今現在問題がないものは難しい。より強く、ピンポイントで「こういう取り組みを行いたい」と提言書でまとめる方が、効果があるのではないかと個人的には思っている。またクラフトビアフェスタの話があったが、うちの大学の学生が大変お世話になった。まさにこれが市民活動だと思っている。うちの大学の学生は、クラフトビアフェスタのために来た学生ではなく、またパネルシアターをやるために来た学生でもない。たまたま関わることで自分たちに何かできないかと考え、やった結果喜びになって、また次やってみようかな、となる。これがまさに、社会活動、社会を育む最も大事な、いわば市民なのではないかと思う。委員のみなさんのお話を聞いていてまさにそうだなと思ったが、たくさんの良い活動があるが、そこに関わって自分になにができるのか、市民のみなさんに分かってもらわないと、関わったところで永遠に「お客さん」で終わってしまう。自分に何ができるか、考えるきっかけを作ることが、恐らく大事なのだと思う。自分に何ができるか、と考えさせるためには、「おもしろいな」と思ってもらわなければいけない。そのためにＩＣＴの活用や、ＡＲ、ＭＲと書いたが、映画を見る時に、タイトルだけ見て見に行く人もいれば、予告編を見て面白いと感じ見に行く人もいる。そしてそこで人生が変わ

る人もいる。しかし、紙のチラシしかないなど閉ざされた雰囲気があると、興味を持つ人がいないのではないかと思う。なんらかの方法で、ＡＲやＭＲといった映像やＩＣＴの活用で、いつでも見られる、であるとか、興味を持たせる工夫が必要。さらに広報するにしても、多くの人に興味を持って貰えるよう、キャッチーな広報物が作れるとよいのではないか。まずは関心を持ってもらって、関わってもらって、自分でもなにかできないかな、やってみたいな、と思ってもらうのが理想なのだろうと思っている。しかしそうなると、ＩＣＴの活用にしても、そうした仕組みを作るにしても、新しい活動になってしまう。既存事業等のスクラップが必要で、何かを削る必要があるのだと思う。やりたい、という理想の話はとても大事だし、これからの目標としても大事だと思う。しかし、では具体的にここに焦点を当てよう、という話ができる機会・場があるといいのではないか。テキストマイニングの資料、大変おもしろく拝見した。例えば我々が書き出したホワイトボードの結果は、線がたくさん出ている。私たちが書き出した付箋は、色々なものを関連付けて、多角的に考えたのだろうなというのが、この線の多さでわかる。担当課評価コメントについては、真ん中に「維持」「継続」「参加」といった単語があり、基本的には現状維持を狙っているのだろうなと感じた。現状維持を狙っている中で、コロナという未曽有のアクシデントがあり、イレギュラーが起こり、困ってしまったという状況が読み取れる。しかし、やはり予算が決まっている以上、現状維持をするしかない。この予算の問題を市民の立場でうまくコントロールできると、おもしろいのではないかと思う。いずれにしても、良い活動が多くあるので、間口を広げて、自分も関わりたいなと思ってもらうことが大切なのではないかと思う。

【議　長】　ハードルを下げる取り組みについて言及があった。ＩＣＴといってよいレベルかは分からないが、そういう取り組みを始めている公民館もあるとのことで、芽は出てきているのは感じ取れた。行政を批判しても始まらない。仕方がない部分もあるし、一生懸命取り組んでいただいているようなので、どうするか考えていくのがいいのかもしれない。

【委　員】　宿題が全然まとまらなかった。こういうことを書けばよかったんだなと反省した。社会教育委員１年目で、社会教育というものがここまで幅広く我々の生活に関わっているのだと感じた。だからこそ、まとまらなくなってしまった。

【議　長】　確かにとても難しかったと思う。

【委　員】　強みについては実際に市の方で取り組まれている内容を挙げさせていただいた。また学校から地域へ、家庭へ目を向けた時に、学校教育活動を進める上で大変助かっていると思うもの。また、今後子どもたちが未来の担い手になっていくということを考えた時に、この取り組みは継続してほしい、発展してほしい、と思うもの。これらを強みとして挙げた。やはり大人がいきいきと活動している姿であ

るとか、大人が楽しそうにつながりを持っている姿を子どもたちに見せることが、一番説得力のあることなのではないかと思う。その良い機会になっているものも、強みとして挙げさせていただいた。アンケート結果によれば、子どもたちの富士見市への興味関心が低い値になっているし、自分が地域となにか関わりを持つことができているのか、という値も低いものとなっている。この結果に対して、つながりづくりとして有効だと思われるものも、強みとして挙げた。弱みについては、仲間づくり、人材育成の分野として広報の工夫を挙げた。あまり興味が向いていない人たちに、そういうことやっているんだ、と知ってもらったり、こういう人たちの支援が欲しいな、と思った時に、よりアプローチがしやすくなったり、参考になる広報の工夫ができないか。例えば学校現場であれば、地域である方面について詳しく研究されている方だとか、活発に活動されている団体であるとか、そういった方々に、学校の教育活動を、子どもたちの支援をお願いしたいと思った時に、文字だけの情報だとよく分からないところがある。ショート動画など、人の表情が伝わるようなものがあれば、より分かりやすいのではないか。写真を掲載しているところもあるが、より充実していけると良いのではないか。また防災については、子どもたちにとっても、地域の大人にとっても、関心が高く、つながりを築きやすいテーマだと思う。子どもたちが地域の方達と一緒に取り組むことで、自分が大人になった時に当たり前のように、地域の中で自分から発信できる大人になっていってくれるのではないか。小さい頃に経験したことは大きな影響力があると思う。防災というテーマは、一つの大事な分野であると考える。また気になっているのが、２ページ目の最後に書かせていただいた、地域に関わる機会や地域の課題解決に主体的に関わる機会を工夫できないか、という点。教育課程上、３・４年生で地域について学ぶ。そこから発展させた形で、他県との比較であるとか、世界との比較という形で展開していく。子どもたちの目線がより広い方に向いていってほしいという気持ちもあるが、外に強く興味が向けられてしまい、足元である地域に対して、関心が薄くなっていってしまう。ある保護者は、それは良いことなのではないかと仰っていた。やはり子どもたちが色々な刺激を受けながら成長していく過程にあっては、むしろ望ましいのではないか、というお話をいただいたこともある。しかし、本校で昨年度に引き続きボランティア活動を積極的に地域の方にお願いして取り組んだ結果、延べ３００人を超える生徒が参加した。その中で、今３年生の面談を一人ひとり行っているが、勝瀬中学校の良さはなにかという問いに対して、１０人に１人か２人くらいは、ボランティアが活発なことだ、と答える。なぜボランティアが活発だといいのか問うと、地域の方々と接することで、自分自身が今後どう生きていったらいいか、考えることが出来るからだと答える生徒がいる。また、様々なボランティア活動があるので、自分が今まで体験したことのない、知らなかった世界を見せて

くれる、それがおもしろいと回答する生徒もいる。わずか１０人の中の１人、２人であっても、その子が１００人、１０００人になれば、その子たちがいずれ社会の担い手の核になるだろうと思っている。今年度も本当にたくさんの機会を、地域の方に作っていただいている。学校と地域のつながりの、ひとつのツールとしても、上手い取り組みだと思っている。学校がこういった方面についても貢献できたらいいなと思う。

【議　長】　参加者が指導員になっているという事例もあった。ボランティアに参加して経験した子どもが、今度は自分がやる側、提供する側に回っていく循環は、非常に素晴らしいと思う。そういう循環を作り出していけると良い。委員のみなさんにお話しいただいた。宿題をまとめてみてどうだったか、自由に感想を伺えれば。

【委　員】　約１７０個あるアクションプランのもたらす効果、価値について。形式上では生涯学習推進基本計画になぞらえてこの各アクションがあるはず。そうであれば、これらの各アクションに取り組んでいくと、「自由な学びによる生きがいができる」という目標が果たされるはず。しかし、本当にこの各アクションが、この計画の目標を達成することにつながっているのか、気になった。個々を見ると良いことをやっていることは間違いないのだが、はたしてこれらが本当に目標達成へとつながっているのか、疑問に感じている。

【議　長】　皆さん仰っていたが、活発にいろいろな取り組みが実施されていることは見て取れる。ただ、それが目的的か、各アクションがつながっているか、そういった点には疑問が残りそうだと感じる。特に計画で掲げている目標とつながっているのかという点。これらのアクションを実施すると達成されるはずだが、はたして本当にそうか。また、何人かの方が言われていたが、参加している人の固定化であるとか、運営側の固定化、高齢化、そういった点も弱みとして挙げられていたと感じている。また取り組まれている事業としては色々とあり網羅されているというイメージだが、そこに多くの人に入っていってほしい、人がつながり循環していくようになれば良い、という意見も多くあったと感じた。

【委　員】　各団体が独立して活動しているという印象があって、コラボレーションがもっとあってもいいのではないかと感じた。コラボレーションがあることで、今までとは違う感じになり、新しい学びが得られたりすることもある。既存の団体は活動を長く続けているところも多く、良いことだと思うが、その団体間で横のつながりを持たせるような仕組みがあると、第３次計画の目標にもう少し近づいていくのではないか。またコミュニティスクールが提唱されていることであるし、各団体が学校を意識するような活動をしたり、学校とコラボするような活動をしたり、そういったことをもっと促していけると良いのではないだろうか。

【議　長】　富士見市のコミュニティスクールに関する状況は。

【事務局】　富士見市では、今現在コミュニティスクールは導入されていないが、

学校運営支援者協議会という類似の会議の場がある。委員の中にも協議会の委員を務めている方はいらっしゃるのではないか。

【委　員】　私も学校運営支援者協議会の委員になっているが、メンバーは限定的。学校評議員、学区内の町会長、学校の三役の先生、ＰＴＡ会長、副会長、また民生委員、児童委員の方々で組織されていることが多い。私はＰＴＡ役員からそのまま学校評議員になり、学校運営支援者協議会の委員になった。ある意味閉鎖的な中での話し合いになってしまうので、他の団体とコミュニケーションをとったり情報交換したりという機会はない。

【委　員】　委員は充て職のような感じなのか。

【委　員】　そう感じている。活発に意見は出るが、やはりメンバーや議題は限定的になってしまうと感じる。色々な新しいものを、という雰囲気ではないように感じている。

【議　長】　議論は活発に行われているのか。

【委　員】　活発に意見が出る。校長先生から議題に対して説明があるので、それに関しての意見が出る。また子どもたちがどういった活動しているのか、授業参観のように見学している。建設的に、新しいことをこういう風にやっていきましょう、という意見を出す場ではない。

【事務局】　学校に関してなんでも自由に議論しましょうという場ではなく、団体の交流の場でもなく、その地域でどのように学校を運営していくか、という議論の軸があるものと認識している。委員のご指摘のとおり、自由な意見ではなく学校の運営に関する意見に限られる。

【委　員】　学校運営支援者協議会のスタートは、学校の学校評価、第三者評価をもとに、学校の運営方針について地域の方々にご理解頂いたり、ご協力を頂いたりしよう、というところから始まっている。富士見市も含めて、この辺の地域では比較的早い時期からその取り組みは進んでいたように思う。コミュニティスクールは後から出てきたもので、もっと大きな狙いがある。例えば進んでいる地域では、教職員の人事についてもコミュニティスクールで議論する。また学校の教育課程や行事について意見を述べるという権限も持つ。そういった地域では概ね学校の中にコミュニティスクール専用の教室があって、そこに朝から夕方まで担当の方が常駐している。子どもたちの活動や教育活動を見ている。現状コミュニティスクールに切り替えるのは、難しいところがあるのではないか。少子化の関係で空き教室が出てきているので、教室は空いてはいる。しかし、いざ学校の中に入っていただくとなった時に、その方々の保障はどうなるのか等、さまざまな課題が発生する。コミュニティスクールを導入し推進していくのは、かなり馬力を必要とする仕事なのではないかと思う。

【議　長】　第三者評価から始まった組織体ということか。

【委　員】　以前は「開かれた学校」が提唱されており、それを作る上で学校に関係している方々、当時はＰＴＡ役員等の方だけだったが、地域の方、町会の代表の方、民生委員児童委員の方、そういった方々にも

参加していただくようになった。私も管理職を務めていたことがあるが、現実問題として会議の日程調整等には苦慮した。しかし、会議で出された意見は、翌年の学校運営に生かしており、学校を変える機関として機能しているのではないかと思う。

【議　長】　ご意見を伺う場のような感じと理解した。

【事務局】　開かれた学校という考えから、共にある学校へと考え方が変化した。開かれているだけではなく、地域とともにある学校が提唱された。

【委　員】　確かに、小学校に地域とともにという横断幕があった。なかよし公園という公園があり、そこで地域の人達によるなかよし公園まつりが開催されている。上沢小学校区に公園が一つもないということで、当時の上沢小学校のＰＴＡのみなさんが市に嘆願書を出して作った公園だと聞いている。今もその方たちが活動を続けており、春と秋になかよし公園まつりを開催している。コロナで開催できていなかったが、今年の４月から再開することができた。前校長先生が、コロナの前の、私の子どもが２年生の時に、なかよし公園まつりで子どもスタッフとして参加した児童に賞状をくださった。つるせ台小学校の校長先生から、あなたは地域の中で活動しています、と賞状をくださって、子どもはとても喜んでいた。今、私の子どもは６年生になったが、なかよし公園まつりも今年度ようやく再開することが出来た。子どもスタッフの募集も１１月のおまつりから再開した。３年生から６年生を対象に募集したところ、１３名から申し込みがあった。今の校長先生も賞状を作ってくださり、児童が地域行事に参加したこと、地域の人と一緒に楽しく活動したことに対して賞状をくださった。こういう取り組みが、先程委員がおっしゃっていたように、地域と学校がアサインしていて良い取り組みなのではないかと思う。しかしこれは、私の子どもが通っている小学校区内に公園があって、私がＰＴＡ本部を経験しており学校と関係が築けていたからであり、校長先生も素晴らしい方だったからこそ成し得たことだと思う。会議の場では、こういったことを要望するような意見は言えないかもしれない。地域とともに、と言ってくださっているからこそ、そういう姿勢を持っていただいているからこそ、できたことだと思う。前の校長先生の時は子どもたちの絵をなかよし公園まつりの時に貼り出していただくなど、様々な形で一緒に盛り上げてくださっていた。

【事務局】　地域とともにある学校ということでコミュニティスクールの導入が進められ、会議に対して学校長の運営方針を承認できる権限、学校の人事に対して教育委員会に意見を言うことができる権限、校長先生や教育委員会に対して学校運営に関する意見を言うことができる権限がある。ボランティアではなく委嘱もされる。富士見市ではまだ導入されていないのが現状。

【議　長】　そこまではいかないにしても、開かれた、よりはもう少し踏み込んだ形はあってもいいのかもしれない。さて、取り組んでいること自体は良いから、そこに参加してもらう工夫だとか、知ってもらうた

めの広報の工夫だったり、一つひとつの良い取り組みをつなぐことだったり、そういった話が出た。また、どこに重点を置くか、という話もあった。他になにかご意見のある方はいるか。

【委　員】　行政にはお金がない。お金があれば解決する問題もあり、施設が変わったり環境が変わったりというのはその一つ。実際に可能かどうかは分からないが、クラウドファンディングやネーミングライツなど、そういった方法を駆使してお金を集められないか。自転車乗車時ヘルメットの着用が努力義務となったが、スポンサーを付けてシールを貼るなどの手法が取れれば、ヘルメットの購入費用は無料で済ませられないか、など色々と考えることはできる。限られた枠の中で、新しい考え方でなにかできないか。今、公の施設でもホームページのバナーに企業が入っている事例もある。やりたいことを考えて、足りない部分をどうするか。目標があり、そこを目指す方策を考える、という手順もいいのではないか。

【議　長】　お金を集める方法は増えている。実施している取り組み自体は良いから、その周辺の広報の手法だとかをみなさん指摘していた。理想の姿と照らし合わせて、どこにフォーカスしていくか考えていきたい。何にフォーカスして取り組むか。現状についてみなさんから頂いた意見をまとめて方向性を確認し、理想ともう一度比較して、焦点をどこに当てるか、次回の会議でコンセンサスを取っていきたいと思う。課題は複数ありそうだということも分かった。全てを扱うのか、優先順位を決めて部分的に扱うのか、次回の会議で意見を出し合っていければ。現状のまとめをし、理想と照らし合わせ、どんなギャップがあるか確認する。そのギャップが取り組むべき課題になってくると思う。現状の課題がほぼギャップに当たる部分かとも思うが、そこをどうしようか、という話を次回していきたい。

３　その他

・各会議への参加報告

【委　員】　先週、入間地区社会教育協議会（以下、入間地区社教協）社会教育委員部会が開催され、参加してきた。議題は大きく２点あり、１点目は、１０月１８日に開催された入間地区市町村社会教育委員研修会について。富士見市からも何人かの委員にご参加いただいたが、ふじみ野市のステライーストという会場で開催された。私も初めて参加したが、とても勉強になる研修会だった。その研修会の反省を行った。２点目は、埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会（以下、県社連）からの脱退について。埼玉県内の他の地域では、単体で脱退している市町もあれば、入間地区のような地域全体で脱退しているところもある。さいたま市も脱退しているとのことだった。入間地区社教協としても脱退したいということで、現在事務局のふじみ野市社会教育課の課長より説明を受けた。ただ、まだ決定ではない

という話だった。役所の方なので、方向性が決まった上でお話しされていたとは思うが、喧々囂々といった感じだった。一人ひとり意見を、ということで発言の機会があったが、「決定事項なのか」と感情的になってしまわれた方もいらっしゃった。まだ決定ではないとのことだったが、聞く耳持たずという雰囲気。脱退について、お一人だけ、話を聞いていたとのことだったが、私も含めてほとんどの方が初耳という状態だった。意見としては感情論がとても多かった。一つ気になったのは、脱退することで、意識が内向きになってしまい、外からの情報が入ってこなくなってしまうのではないか、ととても気にされていた方がいた。その方はもう１０年やっている方とのことだった。富士見市は近い内に社会教育委員会議が開催されるので、他の方の意見も聞いてくるということで、今日、皆さんにご意見を伺いたい。方向性としては脱退するのではないかと思うが、私としては反対するつもりはない。脱退することで内向きになってしまうかというと、そうでもないのではと考えている。入間地区社教協もあるし、外からの情報というのはネットからいくらでも収集できる時代。行政の担当職員に情報を集めてもらうこともできると思う。ただ、私としても脱退については初めて聞いたことだったし、経験のある方が懸念されている問題もあるので、委員のみなさんにお伝えした上で、富士見市としての意見を出したい。

【委　員】　そもそもなぜ脱退するのか。

【委　員】　メリット、デメリットという言い方はされていなかったが、はっきり言って大変なことばかりが多くて、得られる情報と釣り合わない、ということが言われていた。様々な組織があっても、状況は各市町村によって異なり、県内であっても地域によって全く異なる。同じような生涯学習課、社会教育課という行政担当課があっても、やっている取り組みが違っていたりすると、情報として参考にするのは難しい。大変なことばかりなのであれば、脱退してもいいのではないか、という話だった。

【議　長】　県社連に所属することで、大変なことは色々あるのに、得るものが少ないという話か。

【委　員】　ＰＴＡでも入間地区ＰＴＡ連合会にお金を納めていたが、それと同じように、県社連に所属していると、その分負担するお金があって、それは全国大会や総会などに使われている。我々にはまったく関係のないところでお金が使われている。事務局が一番言っていたのは、お金を払っているのに、見合うだけの情報が来ない、ということ。ただ年配の方、ベテランの方はそれでは納得していなかった。今年初めて参加した身としては、別に脱退してもいいのではないかと思ったが、こればかりは人それぞれにお考えがあると思うので、みなさんの意見を伺いたい。

【事務局】　県社連ではあるが、埼玉県は加入していない。何年か前に脱退している。今県社連に加入しているのは、埼玉県の中でも入間地区や比企地区などの一部の地域。委員ご指摘のとおり、富士見市からも入

間地区社教協に負担金を支払っており、１３市町から集めた負担金の中から、県社連へ負担金を払っている。はたして各自治体にお金を払っただけのメリットがあるのか考えた時に、疑問がある。一部の方には情報が入ったりするかもしれないが、その分会議への出席などご負担いただく必要もあり、また富士見市の社会教育にどれだけ還元されるのか、入間地区の中でどれだけ還元されるのか考えると、疑問がある。また委員にあえてお話ししなかったわけではなく、社会教育委員部会の中でそういう話題が出るとはこちらも把握していなかった。

【委　員】　はっきりと明言はされていなかったが、あの口調から察するに今年度でどうにかしたいのだろうな、ということはすごく感じた。先送りしていくというのが悪しき慣習だと思うが、それを何とかしたいと思っている中で、あんなに反対意見が出るとは私も驚いている。

【議　長】　みなさんどう思うか。県社連がなにをやっているかはよく分からないが、入間地区という組織体があり、県社連という組織体があり、そういう階層になっていることは分かった。

【委　員】　古いシステムというものは、なぜそのシステムがあるのかは分からないままずっと残り続ける。コロナを経験して、働き方も変わっているにも関わらず、世の中はなぜこんなにもアップデートされないのかと感じてしまう。ＳＮＳなどを活用して全国の社会教育関係者とつながりを築くことはできる。

【事務局】　みなさんに関係がある部分となると、年に１回、第３３期の委員だった方には年度当初にご案内をお送りしたが、嵐山で県社連主催の総会と研修会が開催されている。

【委　員】　組織が大きくなると年１回の全国大会のために色々な事務が発生するなど、事務局の負担も大きくなってくると思う。入間地区社教協も総会や研修をするための組織ではあるが、色々と意見を出し合って議論しているので、その部分に関しては我々にも情報等がくると思う。しかし県レベルとなるとどうか。ただ、いざ次の年は埼玉県が全国大会の担当だ、となったら、やめることはできない。何年か後には担当が回って来るとのことで、その前にどうにかしたい、という思いは感じた。反対、賛成という決は採らないのではないかと思うが、一応みなさんに共有し、もし脱退に関して反対意見がなければ、決を採るのであれば私の方から賛成表明をしておこうと思う。

【委　員】　会議に出席いただいている委員の感覚にお任せしたい。